

歴史講座

江戸湾の景観を考える

期 間	平成30年2月17日・2月24日（全2回）
時 間	13：30～16：45
会 場	講堂

〔事業趣旨〕

江戸時代の「江戸湾」とその沿岸部は、どのような様相だったか。沿岸部に暮らしていた人びとは、海に対してどのように対応していたのか。江戸と品川の沿岸部については、近年文献史料や発掘調査が進み、その姿が次第に明らかになってきた。また、東海道品川宿には江戸時代の海岸線を示す石積護岸が近郊地域で唯一現存しており、当時の景観を復元し得る文化財として注目されている。

平成29年（2017）3月末、港区立港郷土資料館では「江戸湾の景観」と題し、地形・考古・文献の面から江戸と品川の沿岸部について研究成果を発表する講座を実施した。この講座の成功を受け、研究が進む江戸・品川・深川・川崎の4地域を取り上げ、江戸時代の江戸湾に広がっていた景観を考える講座を実施した。

〔講座内容〕

第1回 2月17日（土） 受講者数 59名

「江戸湾の景観1－遺跡と地形からみる江戸湾岸－」

講 師：高山 優（港区教育委員会事務局図書・文化財課学芸員）

「江戸湾の景観2－深川獺師町とその周辺－」

講 師：出口 宏幸（江東区文化観光課文化財係文化財主任専門員）

第2回：2月24日（土） 受講者数 53名

「江戸湾の景観3－東海道、品川宿の普請と造成－」

講 師：富川 武史（品川区立品川歴史館学芸員）

「江戸湾の景観4－川崎沿岸地域と新田開発－」

講 師：望月 一樹（シルク博物館学芸担当課長）

延べ受講者数 112名